

## 経営改善目標の達成に向けた取組状況

### 1 法人の概要（令和元年7月1日現在）

法人名	(公財) かながわ健康財団				
設立年月日	平成2年10月1日（平成22年4月1日公益法人化）	代表者名	菊岡 正和		
所在地	横浜市中区富士見町3-1	電話番号	045-243-5021		
基本財産等	681,800,000 円	県出資額	116,984,891 円	県出資率	17.2 %

### 2 法人運営における現状の課題

健康づくり事業については、超高齢社会の到来を見据え生活習慣を改善し、健康寿命を延伸していく取組として講義、実践指導、人材育成、健康測定、啓発イベントを行っているが、地域や職域のニーズに応える企画提案力を一層強化していくこと、若年層から高齢者層までの幅広い層への一層の浸透を図っていくことが課題である。がん対策推進事業では、県民の死亡原因の第1位を占めるがん対策の重要性を鑑み、引き続きがん予防対策の普及啓発、がん医療の向上支援していく必要がある。特に、がん全体の10年生存率が高まるなか、がんと共存する社会に目を向ける観点から取り組んでいる「女性のがん対策」「がん教育」「患者家族への支援」「小児がん患者への支援」などの事業を着実に推進すること、これら事業を実施するための財源の確保が課題である。

腎・アイバンク推進事業については、22年1月及び7月の臓器移植法改正を踏まえ腎臓等臓器移植を着実に増やしていくため県民への普及啓発、医療機関への体制整備支援をさらに推進していくことが課題である。

### 3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

\* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

#### 【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	年度	年度	30年度自己評価
1	健康づくり実践活動の普及推進と団体・企業等との連携による事業の実施	件	9 ( 8 )	( 9 )	( 9 )	( )	( )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	生活習慣の改善や介護予防の取組みを、関係団体、企業等と積極的に連携し啓発することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	年度	年度	30年度自己評価
2	がん予防等普及啓発と団体・企業等との連携による講座・イベントの実施	件	9 ( 8 )	( 8 )	( 9 )	( )	( )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	がんとその予防についての正しい知識の普及啓発を関係団体、企業等と積極的に連携し行うことができた。							
	備考							

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	年度	年度	30年度自己評価
3	県民のドナーに対する理解を深めていくための啓発活動	件	10 ( 7 )	( 8 )	( 8 )	( )	( )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	県民のドナーに対する理解を深めていくため、関係団体や当財団の健康づくり事業、がん事業と連携し、広く県民に対して効率的・効果的な普及啓発活動等を行うことができた。							
	備考							

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	年度	年度	30年度自己評価	
1	健康づくり事業における新規の受注案件獲得件数	件	4 ( 2 )	( 3 )	( 3 )	( )	( )	A	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	自治体等からの情報収集、企業団体への提案、新メニューの導入などに努めるなど、積極的な働きかけをすることが出来た。								
	備考								

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	年度	年度	30年度自己評価	
2	寄付金（企業・団体・個人）件数	件	32 ( 23 )	( 24 )	( 25 )	( )	( )	A	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	ホームページでの寄付呼びかけ強化、財団主催等催事での呼びかけなどあらゆる機会を捉え寄付を促している。								
	備考								

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	年度	年度	30年度自己評価	
3	角膜あっせん手数料収入	千円	13,614 ( 10,600 )	( 10,800 )	( 11,000 )	( )	( )	A	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	角膜の移植推進のための普及活動、摘出角膜の一層の品質向上に向けての取組、信頼される角膜コーディネイト業務などにより移植に使われる角膜の増加に取り組んだ。								
	備考								

#### 4 取組実績等についての総括（法人）

平成27年度よりの県補助金の削減等を踏まえ、人員体制整備、新規メニュー導入（健康づくり）、事業内容の見直し（がん対策）、提供角膜の品質向上等（角膜・臓器移植）を図ることで、健全な事業運営及び財団運営を目指してきた。健康づくり・がん対策・角膜臓器推進の各事業については目標を達成できたが、健康づくり事業については、健康寿命の延伸、心身のセルフケアの奨励のため、県の未病改善の取組などと一層連携し、効果的な取組を進める必要がある。また、市町村受託について、入札による受注単価の低額化、受注減が続いているため、さらに企業・団体等を対象に企画提案を強化していく必要がある。がん対策については、県、関係団体の協力を得ながら、がんと共存する社会に目を向ける事業に着手しているが、財源として寄付金の確保を様々な工夫をしながら、積極的に取り組んでいく必要がある。角膜・臓器移植については、特に脳死下等での臓器提供数を増やしていくため、県民向けの啓発、医療機関に対する支援に着手に取り組んでいく必要がある。

#### 5 取組実績等についての総括（所管課）

未病改善の取組をふまえ、「健康づくり」「がん対策」「腎・アイバンク」それぞれの取組について、目標を超える実績をあげるとともに、収支健全化に向けた経営改善として設定した3つの項目もすべて目標を達成できたことは、評価できる。また、昨年度に比べ事業収益が増加したことも、健全な法人運営を続けていく観点から評価できる。ただし、事業受注案件の大部分が行政からのものであることから、さらなる収益増に向け、企業、団体等幅広い顧客の開拓に引き続き取り組む必要がある。また、地域や職域のニーズを的確にとらえ、世間のトレンド等を見据えながら積極的にニーズの掘り起こしを行い、企画提案していくことも期待する。

今後、更なる収支の改善に向け、収入においては、事業収入に加え、がん対策推進事業における「かながわがん対策募金（平成28年度設置）」への企業・団体・個人からの一層の寄付金の確保が課題である。また、経費においては、事業展開に当たり団体、企業との共同実施など工夫をすることで、事業経費の削減を図っていく必要がある。

今後、寄付金に対する税の優遇措置といった公益財団法人のメリットを活かし、本県の未病改善施策を推進する団体として、市町村を越えた広域的な事業等に取り組むとともに、市町村等の事業を積極的に支援しながら、自立的な運営を継続することを期待する。

#### 6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
A	概ね着実に取組が進められている。